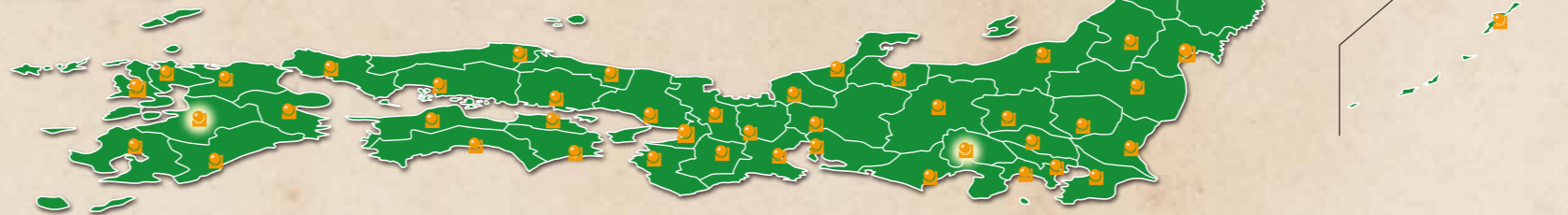


# 活躍の場は全国へ



## 地域で守る、世界の宝 ～富士山の麓から～



山梨県知事政策局  
富士山保全推進課長

泉 智徳

○ 2013年6月22日夕方、「富士山、世界遺産採択！」カンボジア副首相が高らかに宣言し、木槌を下ろしたこの瞬間、富士山は我が国17番目の世界遺産に登録されました。この歴史的瞬間を、私は職場の小さなテレビで見ました。それから約1か月後、その「世界の宝となった山」を担当する課長に任命されるとは知らずに…

○ 日本人の心の拠り所として、また(浮世絵や富士講など)芸術や信仰の対象として圧倒的な存在感を放ち続けてきた富士山。その価値は世界からも高く評価されている一方で、しばしば世界遺産としては「仮免許状態」とも言われ、年間30万人を越す登山者数から「山麓の開発」に至るまで、多くの課題が残されているのも事実です。現在、私は、そうした課題に対する保全策を立案する仕事をしています。「弾丸登山」対策や「協力金」制度導入といった施策も、そうした対応の一環。さらに、再来年(2016年)には、国内の世界遺産では例のない、ユネスコへの「保全状況報告書」提出という難関が待ち受けています。「いつまでも富士山を世界遺産に」を合言葉に、今日も同志である職員の方々とともに、仕事に励んでいます。

○ 世界遺産という言葉が国内で広く普及したのはここ20年前後のこと。世界遺産の保全に関

する包括的な法律などはまだ確立されていないのが現状です。多岐にわたる課題に対応するためには、行政のみならず、住民や観光業者といった「地域」が主体となった「ルール作り」をしていくことが必要です。富士山は巨大な観光地であり、生活の糧にしている人も相当数に上るため、日々、そうした方々のところを足運び、膝を突き合わせながら意見を交わす作業が続きます。地域の将来を思う、熱心な関係者からいただく意見の中には、時には県に対する「苦情」や「不満」の声などもあります。それらひとつひとつが、施策を進める上でのヒントや気付きを与えてくれます。

ルールは、ただ作っただけでは機能しません。ユーザーである住民や関係者の「理解を得て」、(更には「守ってもらえて」)初めてルールとして機能するのです。私は世界遺産という、ある種独特な仕事を通して、総務省の先輩方が常に口にする「現場感覚」の大切さを実感しています。将来、国に戻った時にも、この「現場感覚」が大いに役立つものと確信しています。

○ 激動の現代社会、多様化する価値観。そして不透明な日本の未来。官民間問わず、誰もが「組織」に依存するのではなく「個人」としての力を問われる時代。

幸いにも総務省職員には、地方自治体をはじめとする多様なキャリアパスに恵まれ、その分、自分の多面的なスキルを伸ばす機会が与えられています。そして、山梨や静岡に富士山があるように、それぞれの地域には独自の「資源」があります。地域がそうした「資源」に気づき、個性を発揮していくことで、地域の集合体である日本全体が、より魅力的でよい国になっていくはず。総務省には、あなた自身の手で、地域から国を良くすることのできる無数のフィールドが待っているのです。

○ あらかじめ正答が用意されていない、世界遺産の保全という業務。日々、一人の人間としての総合力(知力、胆力、想像力…)が問われている気がします。新しい発見や試行錯誤の連続の日常は、まるで「冒険」に近いものがあります。

地域から国を良くするという「冒険」、一緒にしてみませんか？

### 経歴

平成20年 4月	総務省採用 同 自治体局企画課
平成20年 8月	大阪府総務部財政課
平成22年 4月	総務省自治体局選挙部管理課
平成23年 7月	内閣官房副官補付
平成25年 4月	山梨県知事政策局政策主幹
平成25年 8月	現職

北海道総務部財政局財政課長 宮本 貴章



平成26年1月24日(金)の記録:  
財政課長としての1日

予算編成作業も佳境に入る。午前中の副知事査定(査定:担当課からの予算要求に対し、予算措置の可否を決めるための会議)に続き、午後は次週実施予定の知事査定の前説明。昨今の社会状況や道内での出来事を踏まえ、予算上の工夫と道民への丁寧な説明を行うよう、知事から個別具体的な指示あり。道民に支えられた知事の、まさに政治家ならではの視点に頭が下がる思い。

平成26年1月25日(土)の記録:  
ハンターとしての1日

前日の予算編成作業から一転、狩猟仲間5人と白糠町の山林でエソシカ弾を行い、4頭の獲物を得る。後日、シカ肉は家族で頂き、職場の方々にも振る舞う。我々人間も自然の恵みを受けて生きていることを実感し、感謝する瞬間。

### 現場の魅力、総務省の魅力

予算なければ事業なしということで、財政課長ほど道庁全体の施策を把握できる役職はおそらくありません。各事業や予算について、目的や必要性、目指す将来像、適切な規模等を判断し、道民に納得してもらえるストーリーを描く。その過程では関係者を説得し、国や他の地方公共団体の理解を求め、議会議員に根気強く説明することも。知識や経験のみならず、センスや人間力も試されるタフな仕事ですが、人間相手のやりがいに満ちた仕事です。

一方、北海道ではエソシカ等の有害鳥獣による農林業被害が大きな問題となっており、休日には留寿都村の鳥獣被害対策実施隊員として有害鳥獣駆除の活動をしています。公務員が仕事を通じて社会に貢献するのは当然ですが、勤務時間外に

も地域に貢献することができれば、日本はさらに良くなっていくはず、そう思い、現在の活動を続けています。また、行政官にとって実体験に基づいて判断できることほど心強いことはなく、狩猟や留寿都村での経験は環境行政・農業行政に取り組み際の大きな助けになっています。

このような地域での様々な経験を仕事に生かすことができるという点で、総務省職員のキャリアパスは大変恵まれています。霞が関で国全体の制度設計に携わる一方、地方公務員として地域で全力投球し、そこで得た知識と経験を霞が関や別の地域で生かす。この現場感覚と経験に裏打ちされた仕事ぶりこそが総務省職員の強さの源なのです。

人間力で勝負する環境に身を置き、全身全霊を注ぐに値する仕事に巡り合いたいと願う方には、総務省で働くことがこの上なく魅力的に映るはずです。志ある皆さんが総務省の門を叩いてくれる日を心待ちにしています。



### 経歴

平成10年 4月	自治省採用 同 税務局企画課
平成10年 8月	鳥取県総務部地方課
平成11年 7月	環境庁企画調整局企画調整課
平成13年 4月	総務省自治体局公務員部福利課
平成14年 4月	同 自治体局公務員部公務員課
平成15年 8月	内閣府地方分権改革推進会議事務局
平成16年 5月	総務省消防庁救急救助課
平成16年 7月	米国留学(UCLA)
平成18年 7月	内閣官房部政民営化推進室参事補佐
平成19年 10月	総務省自治体局自治政策課 国際室国際協定専門官
平成20年 4月	神戸市行財政局財政部長
平成22年 4月	総務省自治体局公務員部公務員課 給与能率推進室課長補佐
平成23年 6月	北海道総合政策部地域づくり支援局参事
平成25年 4月	現職